

## 【モニタリング項目 ID10：地域ごとのヤクシカの捕獲頭数関連】

### 1. モニタリング計画での位置づけ

- (1) 管理目標：Ⅱ植生の垂直分布に代表される貴重な生態系が維持されていること
- (2) 評価項目：D生態系が維持されていること
- (3) モニタリング項目：ヤクシカの動態把握及び被害状況把握
- (4) 評価指標：10 地域ごとのヤクシカの捕獲頭数
- (5) 評価基準：捕獲頭数が適正な生息密度維持のために、寄与していること

### 2. 調査方法

平成 29 年度の捕獲状況について、屋久島町農林水産課、鹿児島県自然保護課、屋久島森林管理署及び屋久島森林生態系保全センターより情報を提供いただき、また、環境省の試験捕獲結果を加えて捕獲位置情報を整理した。さらに、過年度の状況と比較を行った。

### 3. 調査結果

#### (1) 平成 29 年度捕獲状況

捕獲が実施されている場所は、これまで同様島内の周縁部がほとんどで、西部地域や中標高以上での捕獲はほとんど実施されていない。

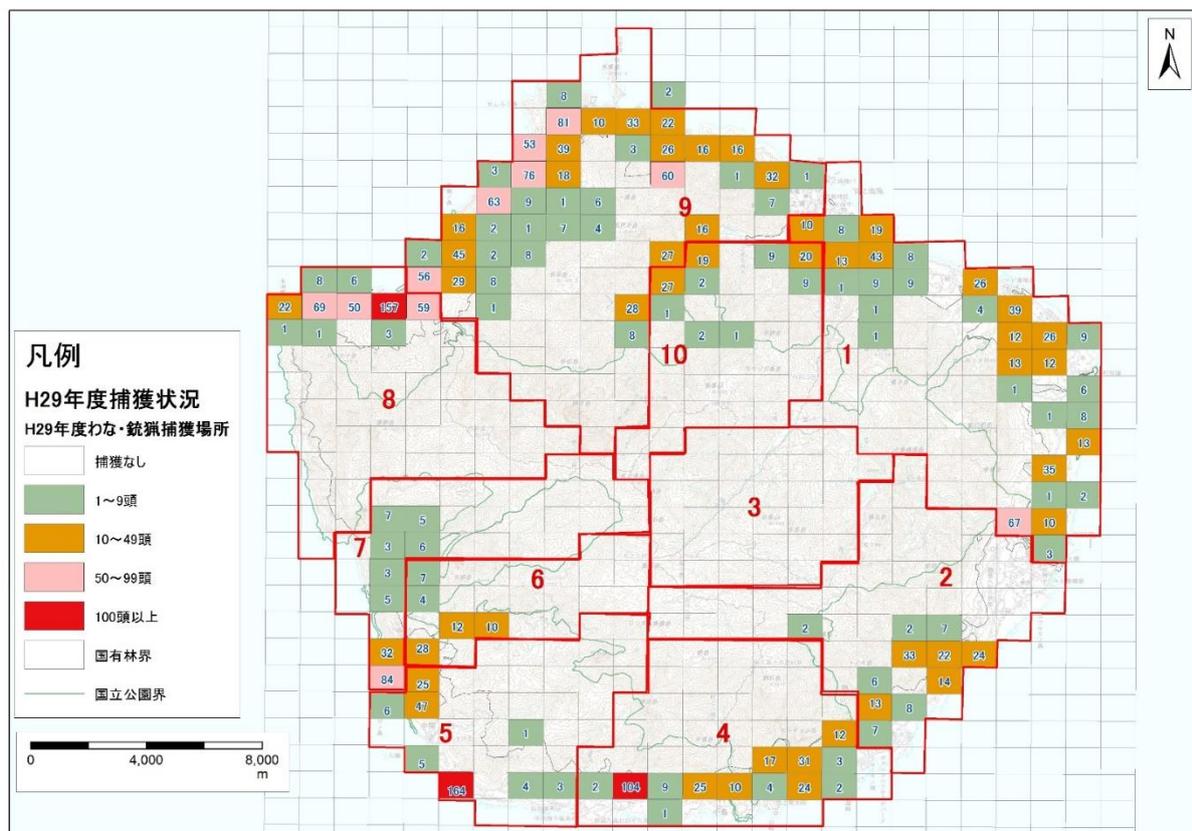


図1 平成 29 年度捕獲頭数 1kmメッシュごとの集計（わな猟・銃猟合計）

## (2) 捕獲状況の推移（平成24年度～平成29年度）

平成24年度から平成29年度にかけての捕獲数（河川界区分別に分類できたデータのみ）の推移を示した。

年度別の捕獲数は、平成24年度から平成26年度まで増加し平成26年度は5,270頭と最大の捕獲数となった。平成27年度から捕獲数が減少し、平成29年度の捕獲数は3千頭近く減少し2,482頭となった。

平成29年度捕獲数を河川界区分別に前年度に対して比較すると、河川界区分6以外で捕獲頭数が減少した。河川界区分8、9では200～300頭程度捕獲数が減少し、河川界区分1、2、4、5、7、10では4～90頭程度捕獲数が減少した。

表1 河川界区分別捕獲数の推移

河川界区分	捕獲数						計
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	
1	1,253	1,432	1,422	951	412	410	5,880
2	194	215	376	289	148	138	1,360
3	0	0	0	0	0	0	0
4	283	245	290	361	313	244	1,736
5	165	140	252	405	290	255	1,507
6	15	85	85	45	47	61	338
7	158	58	108	271	170	145	910
8	240	626	814	896	607	376	3,559
9	1,277	1,476	1,722	1,670	1,078	846	8,069
10	226	266	201	264	174	90	1,221
総計	3,811	4,543	5,270	5,152	3,239	2,565	24,558
	(未分類 捕獲頭数)					193	

※捕獲メッシュに分類できないデータは除いて集計した

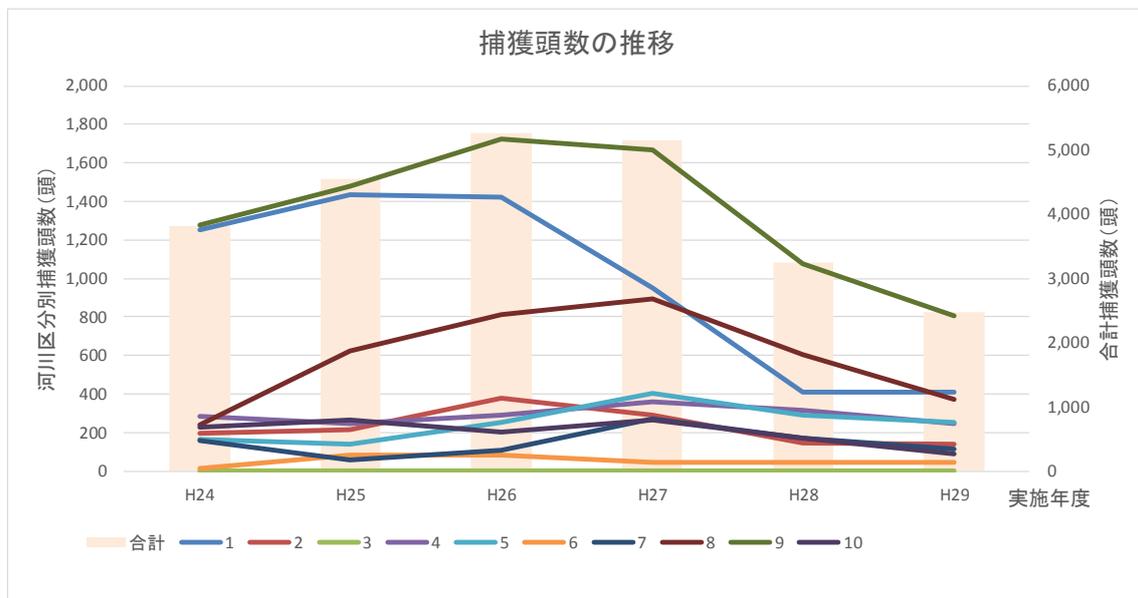


図2 捕獲頭数の推移

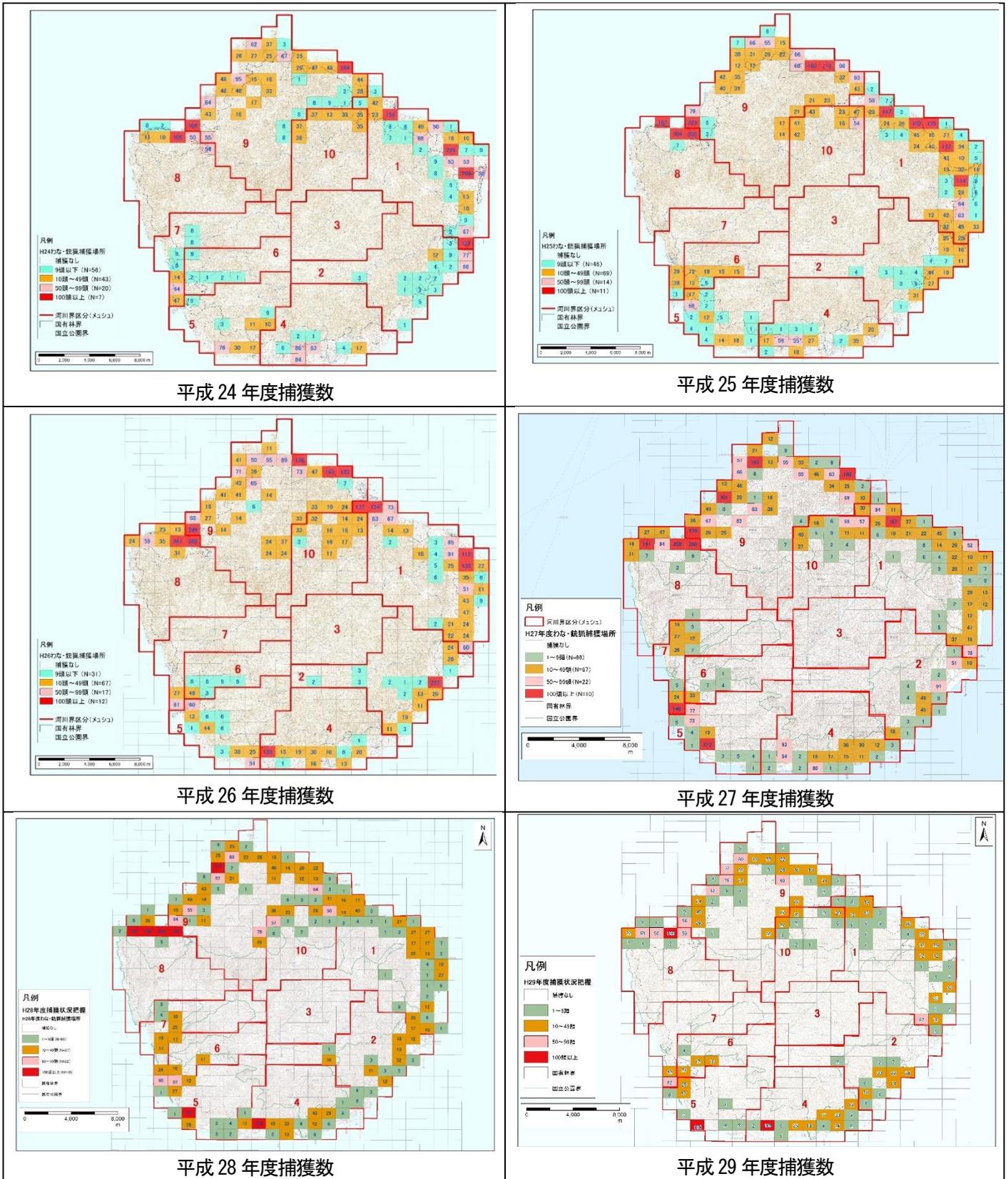


図2 平成24年度から平成29年度までの捕獲数の経年変化

## (3) 捕獲頭数と糞塊法による生息密度の比較

ヤクシカの捕獲効果を検討するため、捕獲頭数と糞塊法による河川界区分ごと生息密度の変化を比較した。河川界区分ごとの生息密度は糞塊密度調査結果の内挿値の結果から各河川界区分内の平均値を算出して使用した。

河川界区分ごとの生息密度は、河川界区分によっては途中一時増加がみられたものの、平成26年度と平成30年度で比較すると全ての河川界区分で減少した。

継続して捕獲を行い、捕獲圧を継続的に与えたことが生息密度の減少につながった可能性がある。また、捕獲が行われていない河川界区分3においても減少が見られたことから、捕獲は捕獲地周辺にも生息密度減少の効果がある可能性がある。

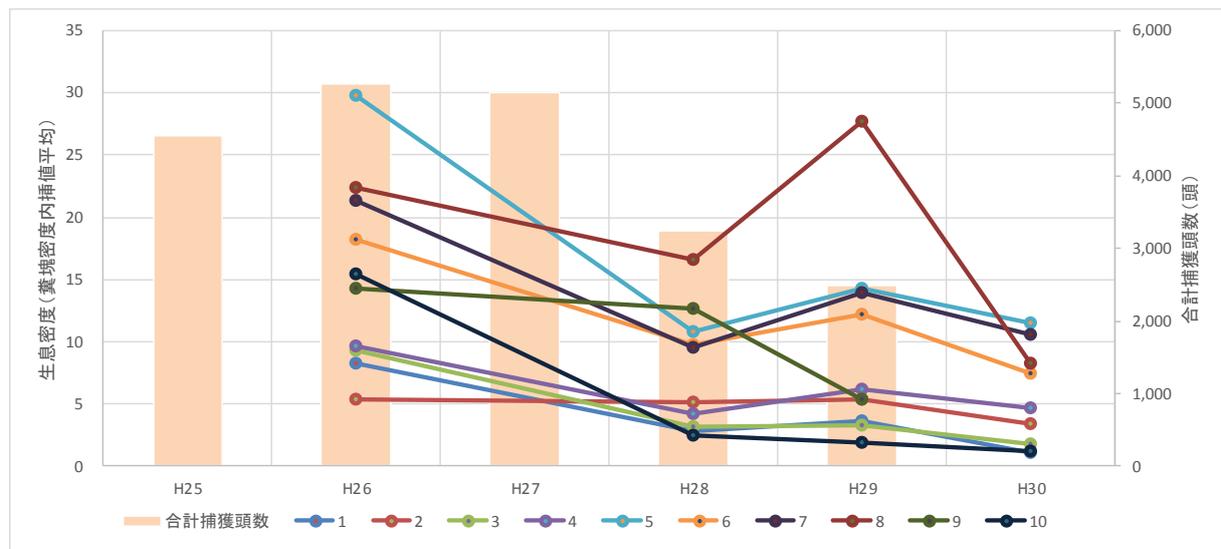


図3 島全体合計捕獲頭数と河川界区分ごとの生息密度（糞粒密度）の推移

捕獲頭数を河川界区分ごとに見ると、捕獲頭数は平成26年度もしくは平成27年度に最大値となり、以降は減少した。対して生息密度は平成29年度に上昇した河川界区分もあったが平成30年度には減少し、糞塊調査を開始した平成26年度に対し全ての河川界区分で減少した。平成26年度および平成27年度の高い捕獲頭により生息密度が減少し、生息密度の減少に伴って捕獲頭数は減少したが、継続的な捕獲により各河川界区分の生息密度が減少しているという可能性が示された。

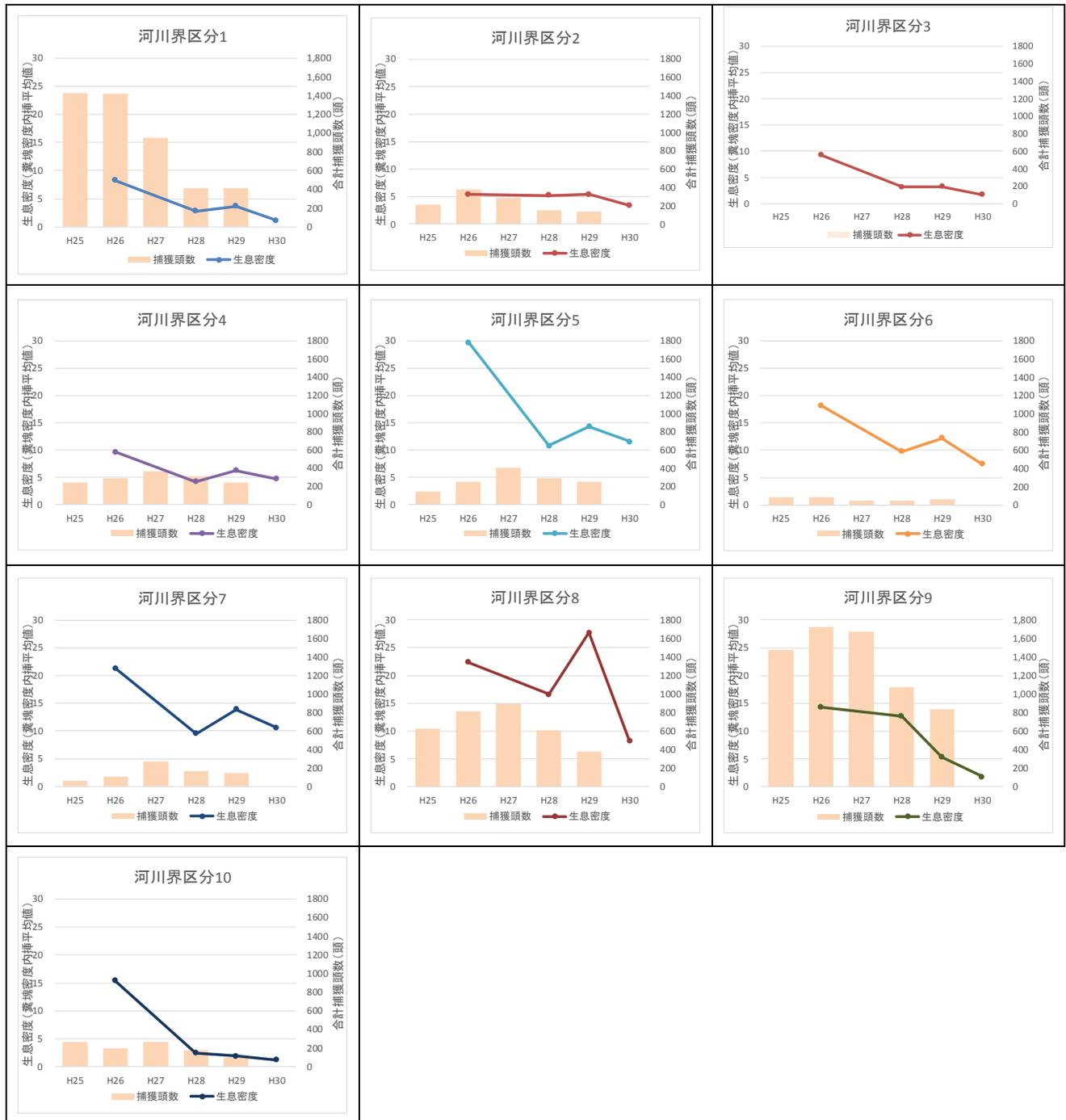


図4 河川界区分ごとの捕獲頭数と生息密度（糞塊密度）の推移